干渉する事の危険性：マイクロマネジメントが組織を殺す

あなたの周りにも居ませんか？一々、干渉マイクロマネジメントしてくるボスや先輩が。もしくは、あなたがそれなのかもしれません。

組織において最も大事なのは信頼、相手を信じて頼ると言う意味ですが、相手を干渉すると相手は自分は信頼されているなとは到底思えないわけです。

何故なら、人が行っている事に対して立ち入って、自分の思い通りに事を進めようとすると言う行動には相手を信じる思いも頼りにすると言う思いが無いからです。

そして、干渉する事が危険な理由として、所有権、当事者意識、責任感、裁量権、これを殺してしまうわけです。

例えば、意気揚々とアイデアを持った社員が幹部達にプレゼンをしました。幹部たちはそのアイデアが良いとは言ったものの、こうした方が良いのでは？これは違うな。これは考えた？と四方八方から指摘される事によってアイデアは良くなるかもしれません。しかし、もはやそのアイデアはその社員の物では無くなってしまったようなものです。所有権がかっさらわれたわけです。となると、社員のその後のアイデアを実行するためのモチベーションはどうなるでしょうか？幹部たちはとっとと、アイデアを認めて、山火事のように燃え盛る社員を走らせ続けた方が良かったかもしれません。

例えば、営業。全ての取引に居ないといけないと思っているスーパー営業マンが居たりしませんか？他の営業マンのアポの商談やクロージング、俺に任せろと言わんばかりに良い所だけをかっさらって、脚光を浴びる。受注してお前も金もらったんだから、感謝しろよと言うかもしれませんが、大事なのは金じゃない。当事者としての責任を奪われて、社員のモチベーション、頑張る動機、インセンティブはガタ落ちです。

人は誰しも、自分は重要と思われたい物です。その欲を満たすのが責任です。そして、責任を果たして重要だと思われたい、認められたい物です。それを奪うのは道徳上の罪です。会社の一員として貢献していると思う社員は、会社や他の社員に対しての深い忠誠心と失敗するもんかと言う心意気で日々の業務に挑むはずです。信頼されている、任されていると思う事は、火をさらに強くするはずです。

干渉する事、マイクロマネジメントしてしまえば、生産性を失った社員達の炎は会社に移り、会社が火の車になってしまうかもしれません。